

● ALTの文化多様性 ～少数招致国からの受け入れ～ —— 熊本県山都町教育委員会学校教育課

山都町について

山都町は阿蘇カルデラの南外輪山の南麓一体と九州脊梁山地に属する山岳地帯に位置しており、標高 200 m から 1,700 m の準高冷地です。2005 年に旧 3 町村の合併により誕生した本町の面積は 544km² で、熊本県内で 3 番目の広さです。児童生徒については 2023 年時点で約 780 人ほどですが、その広さから、小学校 6 校、中学校 3 校を設置しています。この 9 校を 3 人の外国語指導助手 (ALT) で訪問しています。

英語圏以外の国から ALT を受け入れ

本町の ALT は、英語圏以外の国である少数招致国からの受け入れを行っています。少数招致国から受け入れを行う理由は大きく 2 点あります。

1 点目は、なるべく能力の高い人材を確保するためです。母国語がありながら、第 2 言語として英語も子どもたちに教えることのできるレベルまで達している、ということと能力の高さをはかる指標として設定しているわけです。実際、この条件を満たす人材としてこれまで 10 人以上の派遣を受け入れてきましたが、いずれも優秀かつ勤勉な ALT が多く、日本語も話せる、または覚えようという高い意識を持っている方たちでした。

2 点目は、なるべく多くの文化圏から人材を受け入れ、子どもたちへ異なる文化との交流の機会を確保するためです。山都町は都市から離れた山間部ということもあり、あまり外国人の住民は多くありません。そのような環境下で異文化交流をの一環として、英語圏以外からのさまざまな国からの受け入れを図っています。

ALT の業務内容

さて、本町では現在フランス、デンマーク、ノルウェー出身の ALT が在籍しています。業務内容は主に小中学校での英語授業の補助です。英語担当の教諭と打ち合わ

せを行い、資料作成など準備を行ったうえで授業の補助を行います。

授業にあたっては、小学校においては英語教育の入り口ですので、とにかく英語に親しんでもらうことに重点を置いて補助を行っています。ALT がパワーポイントでスライドやゲームを作ったり、音楽を使用したりするなど、視覚・聴覚など感覚的に英語がなじむよう工夫をされています。授業を受けた子どもたちからは「英語は楽しい」と感想が聞かれました。

また、学校によっては単元の学習計画において外国の文化を紹介する時間を設けています。スライドや動画を使った自国と近隣の国の紹介、日本との文化の違いなどを説明することで、外国文化を身近に感じてもらう機会を確保しています。



スライドを活用した授業の様子

その他にも、ALT 本人の希望を確認しながら、運動会や学習発表会など学校行事への参加などを通じた交流を実施したり、今後は英語以外の授業、たとえば生活科などで一緒に母国の料理を作ったりするなど幅広い交流を計画しています。

中学校においてはより実践的な授業を行うため、文法や発音、英語での会話やその際の口語のポイントなどに重点を置いて補助を行っています。学校現場からは教諭

と連携した授業指導のほか、外国の文化に触れることができる重要な機会となっているとの声が聞かれます。

また、夏休みや冬休みの長期休業期間を利用して、希望者に個別指導を行う「オープンクラス」を実施しています。英語でのコミュニケーション能力を伸ばすことを目的として、ALTと英語での会話やディスカッションを行います。オープンクラスで何を学習するかについても、ALTと希望者とで計画をたてることとしており、主体的な学びとコミュニケーションを推進しています。これまでに実施された内容では、英語の4コマ漫画を描く、好きな音楽を英訳する、リズムゲームなど個人の関心に合わせたものとなっています。



オープンクラスの様子

その他の小中学校におけるALTの取り組みとして、母国の文化や情報、時には日本での自身の過ごし方や趣味・知識などを幅広く子どもたちに伝えるため、授業のほかに自ら作成した掲示物の張り出しなども行っています。

また、学校以外でも地域の米作り体験への参加や保育園のクリスマス会への出席などを通じて地域との交流活動も行っています。クリスマス会ではサンタに扮したALTに園児たちから驚きと喜びの声が上がりました。

今後について

今後のALTには、単に英語授業の補助ということだけでなく、子どもたちが世界に関心を抱くきっかけとなることを期待しています。母国語が異なる3か国からの招致であり、文化もそれぞれであるため、各国の文化や言葉、伝統などを子どもたちに伝え、世界に関心を持つ人材育成につながることを大いに期待しています。



ALTが作成した自己紹介、趣味の紹介

また、学校のみにとどまらず地域行事への参加を通じた交流により、国際交流の橋渡しの役割を担うということにも期待しています。本人たちの意識も高く、今年は居住する地域のまつりにおける踊りや太鼓など積極的に地域行事へ参加し、地域住民と交流を行っています。

今後については、地域との交流においてALTからも地域に文化や情報を伝えてもらいたいと考えています。ALTからは、英語圏以外の国であることを生かして、日本では触れることの少ない母国語（フランス語など）の講座を住民向けに定期的に行いたいなど積極的な提案を受けているところです。少数招致国ならではの提案だと思います。任用規則や住民のニーズなどを踏まえる必要はありますが、可能な限り実施していきたいと考えています。

今後もALT、学校、そして地域と連携しながら活躍の場を提供していければと思います。



ALTが参加した保育園のクリスマス会の様子